

28PA-pm252

地域医療トレーニングキャンプにおける IPE 教育の薬学生参加報告～第 8 回地域医療トレーニングキャンプ 2017in さつま町～

○川上唯¹, 安藤有希¹, 小武家優子¹, 大谷昂³, 瀬戸口友萌³, 代永良太³, 川邊史夏³, 下敷領一平², 指宿りえ², 網谷真理恵², 窪田敏夫¹, 森内宏志¹, 大脇哲洋², 嶽崎俊郎², 吉武毅人¹ (¹第一薬大, ²鹿児島大院医歯, ³鹿児島大医)

【目的】地域包括ケアがいわれる中で、地域基盤型で多職種と一緒に地域医療を学べる機会は、本学のような単科薬科大学ではまだ少ない。そこで、鹿児島大学で実施している IPE 教育の第 8 回地域医療トレーニングキャンプ 2017in さつま町(以下キャンプ)に参加し、薬学生がキャンプにおいて地域医療について学んだことを報告することを目的とする。当該キャンプは、平成 29 年 9 月 30 日(土)～10 月 1 日(日)に、鹿児島県薩摩郡さつま町にて実施され、参加学生は、10 名(医学科 5 名、歯学科 1 名、薬学科 2 名、保健学科 2 名)であった。【方法】グループディスカッションテーマは、ドクターヘリ、公民館、医師不足のうち、薬学科 2 名は、それぞれドクターヘリ、医師不足について、話し合った。それぞれキャンプ参加前後のレポートから、学んだ内容をキーワード抽出し分類した。【結果】事前レポートでは、キーワードとして他学科、地域医療、チーム医療、コミュニケーション(交流、関わり)、経験(実感、体験、体感)、地域住民(地域の人)があげられた。事後レポートで新たに出てきたキーワードの内容は、地域特性に関わる言葉が共通しており、総合診療医、行政、多職種連携、かかりつけ薬局、在宅医療、専門能力、補完、傾聴、成長等であった。【考察】地域医療の具体的な課題を他学科学生、多職種、地域住民とディスカッションすることによって、総合診療医の重要性、薬剤師の専門能力の発揮による医師不足の補完、薬剤師のあり方について理解出来た。今後は、IPE 教育のキャンプへの参加前後で定量的に評価したり、他学科学生及び教員から見た薬学生の評価なども検討していきたい。